平城京左京一条二坊九坪の調査

―立会第2020-21次

調査の概要　法華寺町内における仮設水路の改修工事にともなう調査。水上池東南隅の南に位置する、東西17m、南北107mのＬ字形を呈する水路に沿って、幅約１mの調査区を設定した。東西方向の調査区は、平城第191-12・242-13次調査で検出している東二坊坊間路東側溝および東二坊坊間路東築地の北延長線上に位置しており、南北方向の調査区は、東二坊坊間路の路面想定地にあたる（図234）。

調査期間は2020年11月26日から12月２日。当初は立会調査として開始したが、掘削深度が奈良時代の遺構面に及ぶことが判明したため、東二坊坊間路と左京一条二坊九坪を区画する遺構の検出が見込まれる東西方向の調査区については、12月１日より発掘調査として実施した。調査区の総面積は約130㎡。以下では、発掘調査を実施した東西調査区の成果について述べる。

基本層序と検出遺構　東西調査区の基本層序は、上から耕土・床土（65～80㎝）、灰白色砂質土（古代以降の遺物包含層、約30㎝）、明黄色粘質土（奈良時代の整地土）である。東端から約９mについては、想定される道路側溝と区画施設の検出を目的とし、明黄色粘質土上面（標高72.0～72.4m）で遺構検出をおこなった。また西端から約８mについては、道路側溝の有無を確認するため、北壁に沿って一部を明黄色粘質土上面まで掘削した。

調査の結果、整地土が調査区の全面に広がることを確認した。この整地土は、調査区東端より約５mの地点、すなわち想定される東二坊坊間路東側溝の心付近から東に向かってやや高まるが（図235）、この高まりと九坪西辺の区画施設との関係は不明である。また、調査区の東南隅で穴SP11470を検出したが、時期を判別できる遺物を含まず、性格も不明である。東二坊坊間路東側溝は検出されなかった。

まとめ　今回の調査では、東二坊坊間路と左京一条二坊九坪を区画する明確な施設は確認できなかった。南北調査区の南端に接する平城第242-13次調査では、幅約７m、深さ約1.8mの東二坊坊間路東側溝を検出していることから、当該水路は今回の東西調査区付近では削平され失われたか、調査区からわずかに外れている可能性が考えられる。それ以外にも、九坪には施工そのものがなされていない可能性も含め、今後追究していく必要がある。

（岩永　玲）

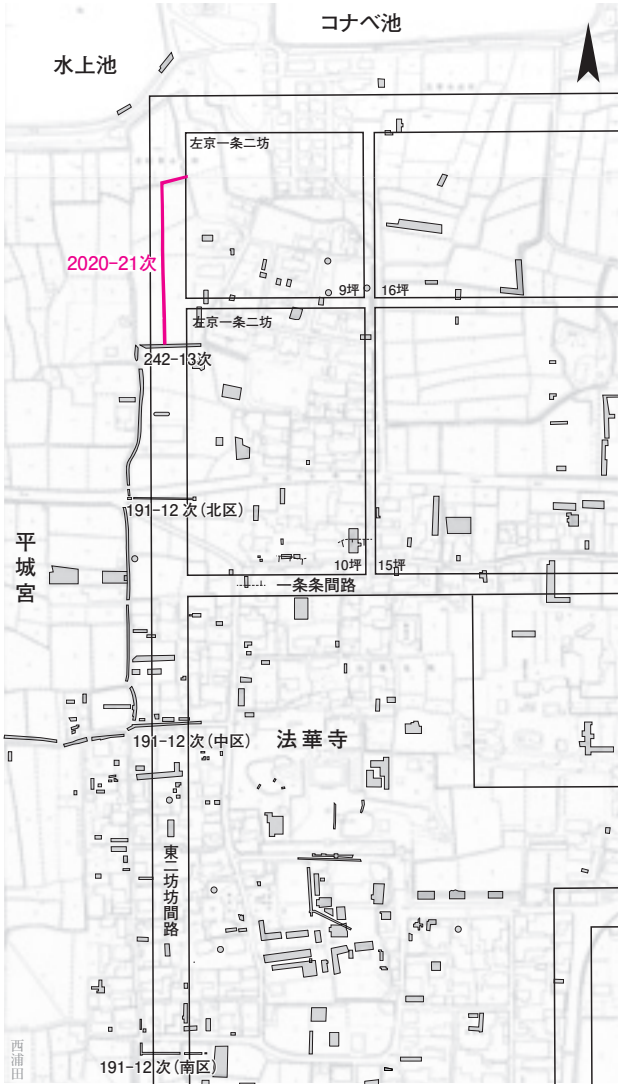

図234　第2020-21次調査区位置図　1：5000

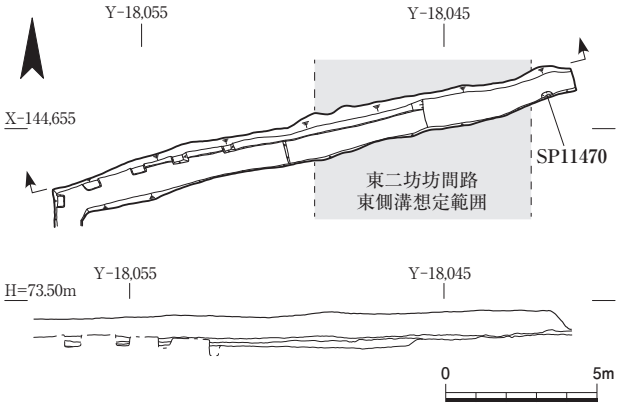

図235　第2020-21次東西調査区遺構図・北壁土層図　1：250